

もど子と人婦

號貳第 卷貳拾第



行發會ルベールフ

第二十卷第二號目次

子どものしもべ

お早うとお休み

子供の不成績は監督者の不注意から

子供の癖に就て

子供の衛生

食膳に上る動物(二)

切花の取扱ひ

緑の家

森の幼稚園

机邊だより

——グライアント氏「話の仕方」——

雑
録

黒田定治

宮川壽美

杉浦恂太郎

石塚保吉

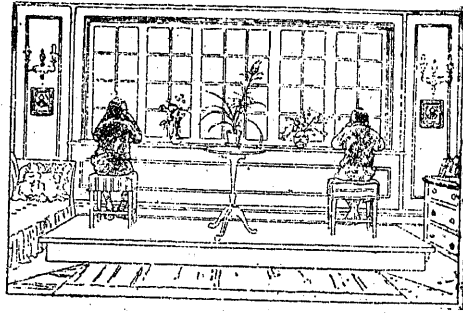
平島權藏

こむかひ

若き父

S K 生

倉橋惣三



第十二卷第二號

子どものしもべ

先生だと思ふから間違ふのです。私達は子供に仕へるのです。私達の苦心はどうかしたら一番よく子供の僕になれるかといふにありますが。子供が若し其の感じからでなく事實から私達を害くとしたら、私達は何たる不行届のものでせう。何たる間違ひだらけのものでせう。何たる無禮失敬な人間でせう。それも之れが眞實自分のありたけならばどうも仕方のないことですが、落ちどが餘り明か過ぎて何の言ひ辯けもないのです。私達は子どもの侶とか師とか言ひもし思ひもして居ながら、なかなか以て子供のことは祿に考へて居ないのです。私達は自分のこと許り考へて居ます。少くも子供のことを思ふよりも十倍も百倍も自分のことを考へて居ます。甚しきは子供の群の中に居ながら、心は自分のことで一ぱいであります。自分のことを思つて居る間に、子供の世話が不行届になります。我がこと許り考へて居るので、飛んだ間違ひを子供にします。うるさいといふ心も茲から出る。そんなさいといふことも茲から出る。毎日の位子供に無禮をして居るか分りません。こんな不忠實な僕がどこにありませう。こんな宥すべからざる僕がどこにありませう。主人のことよりも自分のことを餘計思ふ僕がどこにありませう。教うるよりも仕うるの難きかな。子供の爲に眞の僕となることの、如何に難きかな。之れが私達のまことの嘆聲ではありますまいか。

お早うとお休み

東京女子高等師範學校教授 黒田定治

朝起きた時にお早う、夜分寝るときにお休みと挨拶させるのは、両親や長上に對する禮儀で必要なる躰であることは言ふまでもないことである。

しかのみならずお早うとお休みは子供の活動と休息との區劃をなし、其の終始をなすもので、お早うで子供の休息が終つて活動に入り、お休みで活動が終つて休息が始まるので、此の簡單なる言辭で子供の身心の上に勦からぬ變化を來すのである。お早うの一語で子供の身體も活動し始め、精神も清潔となり、お休みの一語で身心共に安靜となつて安眠に就くことが出来るのである。學校で授業の終始に禮をするのと同じで、授業の始めの禮で子供の姿も正しくなり、精神も引き緊つて授業を受くる適當の状態に在ることができ、課業の

終りの禮で精神も身體も緩んで心身の休息を得るのである。課業の終始の禮がなく、のべつであつたならば専心課業を受けることもできず、遊戯運動も愉快でなからう。これと同じことでお早うも、お休みもないときは活動も十分できず、休息も十分に得られぬことになる。それであるから身體虛弱の子供や病氣にかゝつて居る子供は、活潑にお早うお休みを言ふものが少い。大抵は言はぬ方である。又何事かに激して居て精神の不安の場合にもお早うお休みも言はぬ。お早うお休みの言ひ方やそれを言ふと言ぬとで子供の身心の状態の如何を察し得らるゝものである。これを活潑に言ひ得るやうに子供を育てるのが大切である。活潑にお早うを言つた日は一日中活潑に活動し、活

激にお休みを言つた夜は一夜中十分の安眠をなすものである。

子供がお早うお休みを言つた時には、両親たちもお早うお休みと受け答へてやる必要がある。それは子供の挨拶に對する禮儀で子供の人格を尊重する所以であるのみならず、両親の受け答を得て始めて活動の社會に仲間入りした心持になり、心も静まつて安眠に就くこともできるや

子供の不成績は皆私共監督者の不注意の致す處

うになるのである。殊に両親にお休みと受け答へをされた時には、大に安心して両親の膝下を離れて單身床に入ることが出来るのである。獨りで薄暗い寢室に行つても、両親は彼處で己れを守つて居て下さると思ふて、何の恐怖もなく何の不安もなく眠に就くことができるのである。であるから子供の朝夕の挨拶に對しては両親はやさしく快く受け答をしてやることは甚だ大切の事である。

東京女子高等師範學校教授 宮 川 壽 美

私の兄や姉は皆軍港に居ますので此の頃兄や姉の子供を預かる事となりましたが、子供の教育といふものは、なかくに六ヶしいものだと云ふことを始めて知りました。子供は監督をして居る人に依つてどうにでもなるもので、學校の成績や、行

儀や性格までも、監督の仕方に依つて、酷く違つて行くもので少し注意して、世話をしますと、楽しい面白いものだとも知りました。この經驗から、子供を育てるには、左の如き注意が必要だと思ひました。

衛生上の注意

第一は、食事でありませす。これは成るだけ滋養のある食物を十分に興へることが大切であります。量を過ぎない範圍で十分に興へて置きませんと、どうしても間食をするやうになるばかりではなく、自然、意地きたなくなつて來ます。三度／＼の食事は勿論間食を興へるにしても、學校から歸つて來た時と云ふやうに、時間を定めて興へ其の食事の時は充分に愉快にさせませす。もし不規律に食事前に多く間食させませすと食事の時には僅しか戴きませせん。すると食後すぐ又間食をしたがる。かやうに致しますと腸胃が休まる時がありません。夫故食事の時に充分食べさせ間食も食事時にさまたげのないやうにしたきものです。

第二は、身體を清潔にして置く爲めに、毎日入浴させることが大切であります。宅では、長州風呂と云ふのをを用ゐて居りますが、これが一番輕便

で、この寒き時節に僅に廿分位で沸きます。每晚寝る前に入浴させ、直ぐにベルツ水のやうなひびの薬を顔や手足につけてやります。お湯を使はせると云ふことは、子供には勿論、十四五才の心身の變化する時代には殊に必要であらうと思ひます。入浴させませすと夜中もよくねむり且つ身體の發育もよくなりかの所謂湯ぶとりになります。

第三は、爪を採つてやること、これはうつかりして居ますと、よく忘れる事で、氣がつかずに居ると何時の間にか長くなつて居るものであります。これは絶えず注意して、一週一二度位はきつと採つてやることにして、少しでも生へると氣持が悪いと感ぜさせるやうな習慣をつけて置き度いと思ひます。これは何でもないうなれど親が子供の爪に氣のつく時は必ず萬事氣のつく時でまつくろの爪を長くさせて平氣で居るやうな時は必ず其子供の監督の行き届かぬ時であります。手の爪先から

足の爪先迄とはよく申た事でありませす。

智育上の注意

智育上の方面に就いても。幼稚園から中學に至るまで、十分に監督をする必要があらうと思ひます。或る人は、幼稚園や小學校の時代には健康に注意すれば他は放任して置いてもよろしいと云ふ人もありませうが、私はさやうに思ひません。幼稚園の子供にても、復習をさせると、させないで、學校の成績が現に違つて來るのであります。然し其の方法を誤りますと、反つて悪い結果を來すものですから、それは十分考へて見る必要があらうと思ひます。

私の宅では、夕食後にさせることにして居ります。詰り家族全體が集まつて、夕食を濟ませた後に、其の場で幼稚園でおならひしてきた風車や、桃太郎の唱歌を歌はせ、聞く人はオルガンの口眞似などをして調子を合はせ、先づ姿勢を正しく立

たせ兩手足などもちやんとそろへ禮をさせて歌はせ一同の者は子供に注意して面白さうに愉快に聞いてやる。言ひ換へますと復習の監督をするのが目的であります。子供と一緒に同情を持つて遊んでやるのでありますが。これは獨り唱歌だけではなく、お話にしても同様で、總てかういふ習慣をつけますと、子供は遊びながら嬉しく、知らずくの中に復習もすれば、發音の稽古も、又、どんな話でも、自分の心持ちを發表する習慣ともなつて、子供の心を愉快にすることも出來、他の家族も、子供を中心として、夕食後の休む時間を楽しく過ごすことも出來ます。相當な時に大變御上手でしたねと云ふやうに賞めて、今日はこれで御休みにしませうと云つて止させます。

小學校に行く子供にでも、算術はどんなことでしたと云ふやうに子供と一緒に復習する心持ちになつて、僅か二十分か三十分か其の日々の學科

を聞いてやります。習字にしても、象劃などを
八ツ九ツ頃から教へる事が、早く發達するやうで
あります。私は成長してから筆法を教へて戴きま
した故幼い時から教へてやつたらさぞよからうと
思ひ教へて見ました處割合によくわかりたけにな
るやうであります。そして子供は習字の復習をさ
せた時と、させて居ない時とは學校の成績に非
常な差があります、少しうっかりしますとすぐ乙
を取ります。なる程書は姓名を記するに足るとい
ふやうなことは、この頃よく云はれて居るやうで
すが、然し字の書けないと云ふことは、一生の損だ
と思ひます。私は字がへたで誠に困つて居ります
が、自分が生徒の答案を見て始めてつくづく字の
きれいなときたないのとは大差があると思ひ
ますかの如くに學校の答案にしても、事柄は十分
知つて居ましても、字を知らない爲めに、それを
十分に言ひ表すことが出来なかつたり書き方がま

ずかつたりする爲めに、何時でも十點や十五點は
損をするものであります。又、大きくなつてから
も、字をよくせない爲めに、書面の往復も無沙汰
をするやうになつて來ます、又、職務上の報告な
どもしないやうになりますから習字は小學時代に
他の學科が忙しくならない前に一通り覚えさせて
置く方が子供一生の爲めにならうと思ひます。

それでは、何時學科の復習をさせればよいかと
申しますと、學校から歸つて來ておやつを食べて
から又朝起きて頭の良い時かがよろしう御座いま
す御承知の通り、子供は朝早く目を醒しますから
起きると直ぐに頭の良い時に二十分程復習してや
るやうにして居ります。さうすると、子供の方に
も大變、勵みになつて來ます。

中學になつても尙更らの事で、中學の時代から
は、勉強室を別に與へ、一二年の頃迄は自分が側
について居て、勉強をさせるやうにしなければな

りませぬそれに自分達ばかり他の室で面白さうに遊んで話を居ますと、幾ら中學時代の子供でも、其處を離れて、自分の室へいつて勉強をするといふことは厭なものであります。其故勉強室を暖かくし自分も子供と勉強するやうな心になつてやらねばなりませぬかういふことを考へますと自分が一日家に居て、いろ／＼な世話をしたら、さぞ思ふやうな教育も出来やうと思ひます。けれども朝早く家を出て、歸りますと子供の休みかけて居ることもある位で御座いますから非常に残念に思ひます。これを考へると、母親は成るだけ、家を出ないやうにして子供の世話をすることが大切だと思ふのであります。

ところが、父親の酒を呑まれる家庭などでは、子供に先きお飯を喰べさせて、自分一人でチビリチビリ呑んで居る、お母さんは無暗と、子供に勉強をしないさいとか復習をしないさいとか言ふやうに、言

ひかけて居らるゝ家庭もよくあるやうですが、さう云ふ無理なし方をしましても、子供はごまかして迎も勉強するものではありません。子供を育てるにはどうしても、家族中が擧つて力を添へなければならぬものであります。私の預つて居る子供の内で、初め幼い時から預つた子供は、夕食後の復習を喜んで、唱歌を歌ひますけれども、中途から預つた子供は、お歌いなさいと云つても、はづかしがつてなかく歌ひません。それで、どうにかして歌ふやうにし度いと思ひまして、言ひ附けを聞く方の子供に先づ歌はせ、次に其の子供に、あの方はあの通り上手に歌はれるから、今度は、あなたの番です歌つて御覽なさいと申しますと、漸つと、耻しさうに歌ひます。其處を、大層上手に出来ました。これから段々上手になつておとうさまやおかあさまの處に歸つた時よろこんでいただきませうねとはげまし且つ賞めて置きますと、

次から段々よく歌ふやうになつて参ります。子供の言葉を注意させる事此外注意しなければならぬ事は小児の言葉づかひで御座います遊ぶ時の詞をはじめ相互の詞を一々注意して一々いひなほさせよき上品な詞をつかはせなければなりません。

精神教育

子供の精神教育としては、宗教教育が必要と存じます。と申しましても、單に宗教の形式を子供に強ふると云ふのではなく、詰り絶對善なる神の性格を子供の胸に宿らしめこれを一生の根本とし發達とするやうに育つると云ふことであります。私が預つて居る子供には宗教教育を施してもいいと云ふ許しを親から受けて居りますが、一つは私のやうな過の多い我儘もの獨りでは逆も大切な子供を預る力がありませんので、神様と一緒に預つて居たいと思ふからであります。日曜日にも午前は家で遊ばせ、午後からは日曜學校にやるやうにし

て居ります。すると知らず／＼の中に神様の話を聞きまして、それが長じて世の中へ出てからも、矢張り神を信じ之を根本とするやうになつて來ませうと思ひます。

自分の心に神様を根本とする事が出來ましたなら常に自分の足らざるを知り從つて謙遜な心持ちも起つて來ます。又かやうな人は自分の境遇を支配して行くことも出來やうと思ひます。

ある人は宗教教育は十八九になつてから與へればいいと云はるゝ人もありますが、私は子供の時代から自然と教へ込むことが大切と思ひます。なせなれば宗教を信ずるには三つの要素即ち。第一親切熱心な教師第二其教を受け入るゝ謙遜なる心第三長時間教を聽かなければならぬ。扱て子供の時代には、純な心持ちで人の言ふことを聞き入れるものであります。二は一度や二度聞いたりではわかりませぬが幼き時より永く聞いて居ります

と自然の中に判つて來ますそして第一の親切なる教師にはと申せば。

子供に宗教心を教へ込むには、先づ母親が神を信する人になることが大切であらうと思ひます。母が教師になつて、親切に教へてやりますと、子供は同じことを幾度でも聞くものでありますから、學校を卒業する迄には、立派な人格となり親或は監督者の許を離れても神様を手本とするやうな習慣がつくやうになり如何なる境遇にも打勝つ

子供の癖に就て

(五)表情に表裏のある子供

不斷子供の表情に注意して能く指導することは教育上最大切なることは申すまでもありません、子供の中には尊長其の他目上の人の前には

やうになるでありませんや兎に角私の經驗によりますと小兒のわるくなるのもよくなるのも皆私共監督者の品性及び注意不注意によると存ます私のついそがしい爲例へば復習させる事を怠りますとすぐ成績に影響するのを見ても分ります。かわゆい子供を育つる人は無教育な無責任な人に預けて安心して外出などあんまりできない事とつくづく思ひます。

本郷誠之小學校長 杉浦 恂太郎

極めて温順らしく殊勝を装ひ同輩又は目下の者には勝手我儘な振舞をして兎角表情に表裏のある子供があります、之を矯正せず其の儘にして成長させますと後には信用の置けぬ忌むべき人格となり

ます。

遺傳と境遇と二つの原因があらうと思ひますが、
生後の境遇から來ることも尠くありませぬ、例へば母や其の他の人が姑息の愛を掛け誰々には内々で又は陰にて他人の是非を話し若しくは其の子供を酷く取扱ふ所より自ら表裏の言行をなし第二の天性となるやうなことがあります、因て來る所を能く調べて後矯正に手を付けねばなりません。之を矯正するには成るべく温情を以て接し物事に悲觀せしむること無く行を二つにすることと人の機嫌など窺つて表裏のある言動をなすことは極めて悪しきことを訓誡し人は總て有りの儘なるを貴きこととして獎勵し、一方潔白にして快濶なる友を選びて交遊せしめ指導者は威嚴と恩愛との二つを以て始終勵まして行かねばならぬと考へます。

(六) 怒り易き子供

僅なことにとも忽立腹し少し氣に叶はぬことがあると怒氣を發し直に朋友などに手出しをするやうな子供があります、又我が思ふことが徹らぬと地壇駄を踏むで手に餘るものもあります、是等は固より惡る氣のある子供ではありませぬが人に危険に感じられて朋友なども共に交はらず終に孤立するやうになります。之も遺傳もありますがおひ立ちの事情に因るものもあります、例へば餘り我儘勝手を徹させ過ぎ又は家族中に短氣な性の人があつて知らず識らずの間に之を見倣ふて習癖となつた子供も尠くありません。

斯様な子供を矯正するには性格の反對な子供則成るべく忍耐のある友を選びて交はらせ、一方本能的に短氣を發したる機會を捕へて靜に能く訓誡を與へ勉て自覺せしむるやう手段方法を盡すが肝要と思ひます、又沈着の性を養ふに適した童話等を選びて之を聞かしめ遂に其の趣味を感ずるや

う導くことも一の方法であると考へます。

(七) 移り氣の多き子供

新規を好むは人情であります況して子供は新しき變つたことを喜ぶのは當然でありますが、子供の中には最甚しいのがあります、例へば遊ぶ中にも甲から乙、乙より丙、丙より丁と少しも一事に注意と興味とを持續せぬ性質の子供があります、之は遺傳もありませうがおひ立ちの境遇から來ることがあります、例へば毎日目先の變つた玩具などを澤山に與へ過ぎて忽ち玩具の山をなしたれもこれも飽きて終には新しき物新しき物と好むやうな習慣が出來て注意が誠に移り易くなつたのもあります。

是の癖を矯めるに其の性質に因つて方法を定めねばなりません先づ玩具其の他に就て物の用ひやう又は遊びやうに成るべく細に注意せしめ自然習熟することに因つて興味を感せしむるやう導く

ことが必要と思ひます、則注意の持續性を養ふことであります。

(八) 自分勝手の多き子供

何事も自己に都合の好いことは言ひもし又行ひもするが朋友其の他の言ふことには少しも耳を傾けず知らぬ振をし他人の困ること又は他人の爲には行ふことをせぬ子供に似合ぬ性質を持つものがあります、則利己心の強い子供であります。是は遺傳と習慣と二つを併せて來ることが多いやうであります。

此の矯正は頗る困難でありますが兎に角機會ある毎に能く誠めて自他利害の共通することを自覺せしめ勉めて物事に協力せしめ具體的に導き且つ賞罰と制裁とを明かにすることが大切であります。

(六) 出しやばり過ぎる子供

何でもかでもよく知つた振りをして誰よりも一番先に喋々しく口を出し俗に云ふ高慢ちきで子供

らしく無い癖のものがありません、此の癖は遺傳より来り又境遇にも因りますが其の儘棄て置くときは將來信用の薄い人となるでありません。

之を矯正するには教育者は威嚴を保ち彼持前の癖を出したるときは之に應ずること無く不言にして制裁を感せしめ又不言實行の人の例話などを多く説き聞かせて知らず識らずの間に性を移すやう力を盡すが必要であります。

(一〇) 理窟を言ふ子供

物を與へられても多しとか僅かだとか、事を言付けられても從順でなく何とか小理窟がましいことを言つて快く受けぬ習癖を持つ子供があります之も因つて來る所を調べ然る後矯正法を考へねばならぬのであります、斯様な子供は總ての進歩に害があつて人に厭はるゝやうになります。

此の矯正法は無益な理窟を捏ねるときに物事を中止し希望を達せしめず却て不言實行の勝れるこ

とを自覺せしむるやう導き、又他方には寡黙寛容な性格を供ふる子供を選びて之と交遊せしむることが大切と思ひます。

(一一) 虚榮好きの子供

衣服其の他の物品より玩具などまで子供に似合はぬ驕つたものを好み之を他人に見せて己一人立派であると言ふやうな心持ちをして誇りたがる癖のあるハイカラな子供があります、之は遺傳もありませうが是迄經驗した所では境遇より習癖となつた子供が多くあります。

是は子供を訓育して改めしむることも無論必要であります、先づ兩親を初め家庭に於て華著な慣習を止め萬事を自ら戒めて質朴に育てるやう境遇より改むることが最も効が多からうと考へます、子供は總て見様見真似をして人と成るといふことを忘れてはならぬと思ひます。

(一二) 物をかくす子供

子供の中には自分の所持して居る物を人に見られることが厭で直きかく癖のあるのがあります。學校の教室で美術其の他筆記などの時に身體をかいて人に見せぬやうにかくして居るのは多く見る所之は遺傳にても習慣にてもいづれしても性質の宜しくない癖であります、教訓して公明正大と云ふことを自覺せしむると同時に監督を厳にして早くこの習慣を改めしむるが大切であります。

(一二) 嘘言の子供

方便と云ふことも知らず時と所とを選ばず總て有りの儘に其の性質を顯はすのが無邪氣で子供の貴い所であります、然るに僅かのことに嘘を言ふて信用の出来ぬ子供があります、遺傳から來たのであると矯正に困難でありますが習慣に原因したのなら能く調べて其の境遇を變へ極めて正直な朋友と交らしめ言行に注意して教訓を加へ賞罰を明にして良心を喚起するやう努むることが必要

と考へます。

(一四) 野鄙なまねをする子供

遊びをするにも言語にても其の本能的から働くことが兎角下品なことばかりをする子供がおります、斯様な質を持つ子供の中には遺傳もありませうが境遇から來た習慣が多くあります、下劣なことをしたときは其の場で之を改め行はしめ言語も改め言はしめ反復修養せしめて漸次高尚な言語動作に慣れしむるやう努むるが大切であります。

(一五) 滑稽なまねをする子供

有意注意を要する場合は眞面目であるべき時に意表な言語を吐き舉動をして人を笑はせ其の場の締めくゝりの付かぬやうなことをする質の子供があります、之も遺傳もあり習慣もあります、斯様な子供は成るべく自尊心の深い物事に熱心する性のある子供と交遊せしめ特に訓戒して威厳を正し矯正することが大切であります。

(一六)食物に好き嫌いの多き子供

日々の食事にも間食にも好き嫌が多く食物にむづかしい子供があります、中には野菜類のみを好みて肉類其の他生臭きものは一切食さぬのもあります、之は體質の遺傳から多く来ますが又育てる際に言ふがまゝ、任せて味はせぬ所より益偏食の習癖を作つたのもあります、棄て置きますと成人の後體質が弱く精神も早く疲勞し易く誠に心配の多いものであります、斯様な子供には充分運動を奨励し其の空腹な時に少し嫌なものでも何でも食せしめて終に習慣を改めしむるやう導くことが大切と思ひます、食物と精神との關係は申と長くなり申すから育てる時の注意が實に大切であると申して置きます。

(一七)他人の事を聞きたがり又言ひた

がる子供

自己に何も關係のない事を勉めて聞きたがり又

他人のことを言つて幾分か興味を感じて居る癖は大人にも少く無いやうで子供にも此の癖が傳染して居るのを見ます、子供に此癖のあるのは多く境遇から來たもので誠に下劣な習慣であると思ひます、之は多言を戒めて慎ましめ制裁を嚴にし一方淡泊の氣質を奨むるやう注意せねばならぬと思ひます。

(一八)嫉妬深き子供

女子に多く此の性がありますが男の子にもあります、特徴として交る所の朋友が種々に變り甲の子供と睦みかりしものが忽ち乙と親しみ甲とは反目の姿となり丙丁と次第に移り又悪感情を持つて報復の念が盛んであります、斯様な子供は成るだけ平な心の子供と交らしめ其の事實毎に能く訓戒して改悛せしめて次第に性質を一變するやうになれば幸福と思ひます。

(一九)人を羨む心の深き子供

衣服にても品物にても又學業の成績にても己に勝ると思ふ時は非常に他人を羨む性の子供があります、此の癖は危険に陥ることがありますから最も注意せねばなりません、先づ分に安んずるやう萬事を躰け何事にも自己のなす業に専ら心を用ひしめ久しき間に自信力を養成するやう努力し不識の中に改めしむるやう勉めねばならぬと思ひます。

(二〇) 慘酷な癖のある子供

稀には非道な質を持つ子供があります、例へば遊ぶ中にも直き物を毀損したり動物などを苦しめて興じがり時としては朋友を苦しめて泣かせたりする性質があつて甚だ慘酷な者があります、之も遺傳と境遇と二つありまして矯正するに特別の訓育を永く施さねば改めしむことが困難であります慈悲深い温良の質ある朋友を選みて之と交はらしめ一方博愛慈善の教訓を多くし指導者は勉めて實

踐上の機會を與て慈愛の情を經驗せしむることが必要と考へます。

以上舉げました所は子供の惡癖とも申もの、中の僅かな例に過ぎませぬ、又其の矯正の方法とても盡したものではありません、唯世の父母保母教師たる兒童教育の責任ある人々は深くこれに注意し形式ある教授訓練の外に於て教育の必要あることを思ひ事實上訓育の効果を完ふせられたきことを望むの切なる所より敢て數言を費した次第であります、子供の癖を矯正するには自ら其の時期がありまして幼き頃に手を下さす程効の多きことは異々も申して置きます、子供は大人の眞似をすること猿のやうであると昔から俗に申して居りますが至言であると思ひます、形戒を定めて教育せぬとも子供は總て大人を模倣して自ら修養するものでありますから子供が具へて居る所の習慣は善惡とも大人より移し植たものと見ても過言で無らうと信

じます。

本問題の外子供の具ふる美質に就て調べますと
實に澤山ありまして之を助成して練習し人格の根
抵を成さしめ智力の基礎を作らしむる上に於て具

子供の衛生

寒胃の豫防と手當

この間から寒胃が一番はやつて居ります。寒胃
の豫防として、家に依つては、無暗と着物を澤山
に着せたり、室を過度に温めたりする家庭もあり
ますが、それは反つて豫防にはならないのであり
ます。勿論、寒さに犯されないやうにして置くこ
とは必要でありますけれども、それ以上に出て人
工的に温めるよりは、寧ろ、幾らか寒さに慣らす
やうにして置く方が、豫防としては効果があらう

體的に研究するのは一層の興味があると考へます
他日機會あれば鄙見を述べて教を乞ひたいと思ひ
ます。(をばり)

醫學士 石 塚 保 吉

と思ひます。風を引くと云ふことは、温度の變化
が劇しい爲めに起るので、例へば温かき家の中に
居つたものが急に外の寒風に遭ふとか、着物を澤
山に着て居たのを、襦袢を換へる爲めに急に寒く
すると云ふやうな原因が主となつて居るのであり
ます。故にさういふ變化をさせない爲めに、平素
から適度の衣服を着せて置方がよいと思ひます。
これと反對に、いよく風を引いてからは、寒
さにならすといふことは、絶対にいけないので、

この間もさう云ふ間違をして居る人がありました
が、これは大變な誤りで、寒胃になつてからは、
着物も十分に着せ、室も温め、外へは出さないや
うにすることが大切であります。室を温めるのに
火を燃く場合には、それと同時に濕り氣を持たせ
る爲めに、金盥か何かへ水を入れて火の上に置く
ことが大事であります。

この場合に、家庭で差し當りせなければならな
い手當は、風を引くと大抵は咽喉が悪くなるのが
普通でありますから、先づ吸入とシツプをするこ
とが大切であります。或る人は、家でこの手當を
やつてはいけないと云ふ人もありますけれども、
私はいいと思つて居ります。無論、寒胃になれ
ば醫者へかゝることは必要でありますが、別に害
にはならないのですから取り敢ずシツプをする方
がいいので、其のやり方は、ガーゼに水を注いで
首にまき、その上へ油紙をやつて、又其の上を糊

帶でまいて置けばよろしいのであります。吸入は
誰れでも御承知のこと、思ひますから別に説明は
致しません。然しそればかりに倚つて安んじて居
られては非常に迷惑なので、寒胃は萬病の基と云
ふことは、どうしても事實なので、寒胃だくと
いつて居る中に、いろいろな重病に變つて行くも
のであります。昨夜も夜中に起されて往診致しま
すと、風を引いて四五日目だと云ふのにもう全體
の肺炎になつて危急に迫つて居たと云ふやうなこ
ともありましたので、風を引いた時は先づ
當座の手當として、吸入やシツプをやり、同時
に醫者へ行くことを忘れてはならないのでありま
す。寒胃が原になつて起る病氣は氣管支加多留、
肺炎、咽喉加多留、これから續いては中耳炎、腦
膜炎であります。兎に角、大抵の病氣は寒胃が元
になつて起つて來るもので、暫くの間で、どん
な變化を見ないとも限らないのであります。

風を引いて居る間に、湯に入るとは絶對にいけないので、よくこれを聞く人がありますけれどもこれは嚴禁せなければなりません。湯が風の原因になることさへも往々にあることであります。

勿論、湯其のものは大變いいものでありますが、湯から上つた後の手當が間違つて居る爲めに、風を引くことが多いのであります。少し熱いと思ふ位の湯に入つて後は、室を温くし、大抵攝氏十八度位)衣モノも夜具も十分に着て、何も用事をせずに、寝かしてしまへば、餘り心配はないのであります。然し夜中子供に便をさせる時などは餘程注意せなければ風を重うする事となりなますから、風の時にはなるべく湯に入らぬ方が宜しいのであります。要するに風の豫防と、風の手當とは大に違つて居るものだと言ふことを忘れてはなりません。

百日咳の豫防

これは傳染病の一種でありますから、百日咳の流行する時節には、成るべく外へ出ないやうにすることが大切であります。電車、學校、人込の中に居る間も餘程注意をするやうにせなければなりません。この病氣は容易に治らない質の悪い病であります。この病候と云つても、初めは普通の咳と別に變りはないのであります。然し暫く過つと、コツ／＼と小さな咳が續いて出て、非常に苦しいやうな咳を幾つもした後に、息を後へ長く引き、寢て居る子供だと、眞赤な顔をして起き上つて、うつむき、非常に苦しうな表情をする。かなれば、もう立派な百日咳でありますから、他の子供を側へ寄せないことに注意をする。そして少しでも早く醫者に掛ることが必要であります。此の病は治り悪い病ではあるけれども、早く手當をすれば、苦しみを少くし、又經過も短くすることが出來ます。又、百日咳だけでは、生命に危険

はありませんけれども、これに他の病氣が併發して來ると、中々危険です例へば肺炎等に變化すると命を奪はれる事が多いのであります。世間には百日咳だから心配はいらぬと云つて、擲つて置く人が多ので、この間も、さう云ふ人があつて、とう／＼肺炎になつて死んだ例がありますから、十分注意をせなければなりません。

肺炎の豫防と手當

これも初めは氣管支加多留から變化して來ることが多く、麻疹、百日咳等の傳染病からも續いて來、又初めから肺炎になることもありす。此の病の徴候としては、熱が主なるもので、咳も出るのもあれば出ないものもある。然し子供だと、著しく機嫌が悪くなり、初めは左程でもないが暫くすると、息苦しく、呼吸が劇しくなる、極く悪くなると呼吸困難の爲めに小鼻を動かしたり、腹の水落の邊りをへこまし、もつと酷くなると、唇の色

が變つて來る。さうなると危険が迫つて居るので急に生命を奪ふやうなこともありすから、大急ぎで醫者へ行かなければなりません。この時、醫者のする仕事としては、胸に氷のシツプをするのが普通であります。處が家に依つては、此の寒いのに、而も子供にこんな氷シツプ等をするのは間違つて居るとか、可愛さうだとか云ふ考へから、反つて温めやうとする人もよくあるやうですが、これは大變な間違で、氷で冷すのは藥よりもきくのですから、醫者の言ひ付けを守らなければなりません。又、肺炎の手當は自宅ですることが、困難なものですから、成るべく病院へ入つた方が誤りがないのであります。

ジフテリアの豫防と手當

これも傳染病の一でありますから、流行する時には、成るべく外出をさせないやうにして置くことが大切であります。この病氣の徴候は皆左様で

はありませんが、呼吸困難が起ること、熱は比較的少いものであります。ジフテリアになれば、必ず熱が高くなると思つて居らるゝのが普通のやうですが、それは大間違で、普通の扁桃腺炎と、ジフテリアとの區別は熱の低いことだとせられて居る位であります。咳は犬の吠えるやうな厭やな音を出します。それは喉が狭くなる爲めで、ひつかゝるやうな咳をして、息苦しい情態があれば、ジフテリアだと假定して、大急ぎで醫者の處へ駆けつけなければなりません。この病氣は僅かの時間を争ふ位な病氣で、時間さへ早ければ、血清療法で必ず治る病でありますが、時間を過せば血精注射が效を奏する前に窒息して死ぬるものでありますから、其の徴候があつた場合には、直ぐに醫者を呼ぶことを決して忘れてはなりません。前に云つたやうな犬の吠ゆる様な咳はジフテリアのみではありませんが、其の區別が一つと六ヶしいもの

ですから、さう云ふ咳があればジフテリアと假定して醫者へ行けば間違はありません。ジフテリアの他の徴候は、喉に白いものがつくことで、それが深い處にある時と、浅い處にある時とがあつて浅い處に出た時は咳も餘り起らず危険も少いけれども、危険が少いと云つて擲つて置くくと心臓麻痺を起すことも少くありませんから、喉に白いものが見えた時は、無論大急ぎで醫者を呼ばなければなりません。(完)

附記、本文始めの部分は前號唐澤氏の御説と反對の様に見えますが、決して左様でなく、同氏のは極端なスバスタ風の養育法をとられる人に對する御注意で、私のは夫れと反對な餘り御子様を大事になさり過ぎる方に對して申上げたのです。

食膳に上る動物

(其一)

東京女子高等師範學校助教授

平 島 權 藏

○鳥賊の話

食膳しょくぜんの上の動物どうぶつと申しも其種類そのしゆるゐなかく多くてとても悉ことごとく御話おはなしの出來できるものでもなし、又御話おはなしする積つりでも在ありません。こんな標題へうだいを掲かげて見みましたけれど、何所迄御話どこまでおはなしして何時御免蒙いつごめんこうむるか分かりません。そんな事ことで此貴重このきちゆうの紙面しめんを汚けすのは、相濟あひままぬ様な氣きも致しますが。若もし少しでも御役おやくに立たつ所ところが在あるか、又は面白おもしろい所ところが在ありましたならば、其は私わたしの満足まんぞくする所ところで在あります。で御話おはなしする種類しゆるゐも何を先まきに、何を後あとにと申ます、順序じゆんじよも何も在ありません。唯途上たいつじやうの魚屋さかなやなどに見付みづかつたものを手當てあたり次第しだいと申ます様に御話致おはなしたしませう。

いかに、は鳥賊ういぞく又は墨魚すみぎよと書かきます。魚類ぎよるゐでも蟲類ちゅうるゐでもなく、寧ろ貝類かいるゐに近いので、併せて軟體動物なんたいどうぶつといふ、一門いちもんに入れて在あります。然し貝類かいるゐの様に、體外たいがいに殻からを持ちませぬ、が體内たいないの背部はいぶに炭酸たんさん石灰せっかいから出來た、所謂「鳥賊の甲」として船形ふねがたの殻からが在あります。頭あたまは明かに體軀たいくと區別くわつべつされ、拾本しゅうほんの足あし(一手ひとての様な用する)は、口の周圍しゅうゐに在あつて、各の内側うちがはに多數たうすうの吸盤きふはんが在あります。頭あたまの兩側りやうがはには、大なる眼めが二つ扁き體ひらたの兩緣りやうゑんに肉質りやくしつの鰭ひれが二つ、腹側はらがはには袋ふくろの様な外套膜がいとうまくの中に漏斗ろうとうといふものが在あります。

棲所せいじよは、多く外海そとうみで在あつて、唯産卵たひさんらんの時季じきに海岸かいがん近くに來くるので、産卵さんらん終れば再び外海そとうみに歸かへります。全國ぜんこく殆んど産せぬ所なく、特に北方ほつぱうに多おほい

ので、函館邊りで漁獲の盛んな時には、其價東京の何十分の一ださうで在ります。前に述べました外套膜の背側内には、二個の柔軟なる鰓が在ります。是れで

呼吸を營むので在つて、其場所を外套腔とも鰓腔とも謂ひます。水が外套膜縁から、此腔に流れ込み鰓を浸潤（即ち呼吸）して後、腸と腎臟からの排泄口が此腔に開いて居るので、其糞尿を共に流し込み、今度は管狀の漏斗の口から、體外に流出する、其有様は丁度烟突の様で在ります。此時には初め水の流れ込んだ外套膜縁は、勿論密閉せられねば成りません、其爲めには單に外套膜縁の收縮計りでなく、其内面には押し鈍の様な凸起が在つて、體軀の方には是れが填まる丈の凹みがある、だから滑れる様な事なく、互に都合能く閉ぢ合されます。

運動 するには、此漏斗管から水を猛烈に吐き

出し其反動で、體を後進せしむる、其れは實に迅速で丸で鳥の中空から射下するのと同じで在ります。前の呼吸と此射行とは同じく漏斗管の作用では在るが、唯其緩急を異にするのと、水棲の動物でなければ出来ぬ働きで在ります。此際其足は出来るだけ擴げて、後速かに集合させます、初めのは水を打ち後は其抵抗を少くするので在つて、魚の迅速に泳ぐ時に、鰭を悉く體側に押付くのと同様で在ります。後進は斯くの如く迅速で在るが、前進は是に反して非常に緩慢で在ります。其れは彼の内鰭と、下方の四本の足（捨本の足は上方下に各四本と側方に二本）とで遊ぶので在ります。

鳥賊は肉食で且つ暴食で就中魚類蝦蟹等を嗜好します。斯の如き迅速に游泳する動物を捕ふるにも拘はらず、彼れは此時海底で緩慢なる運動をして居ます。然し其體色は非常に速かに、其周圍

の色彩に一致させます。是れは水族館の様な所で
實驗する事が出来る。此機能は、彼の體面に存在
する、無数の色胞の作用で、赤の色胞のみ開張す
れば赤くなり、鳶の色胞のみ開張すれば鳶色とい
ふ様に、或は縁或は何と種々の複雑なる色彩に變
化し得らるゝので在ります。丁度吾々の

眞赤になつて怒り、眞青になつて恐怖するの
と同様で在ります。是れは章魚なども同じで、章
魚が能く海岸の岩石の間などに潜伏して居るのを
引き出し棒などで打ちますと、眞青になり、放す
と忽ち岩の色に變ります。又水中を速かに遊ぶ(射
行)時には青くなります。是れは海水の色に擬す
るので、何れも敵の眼を晦ますか、得物の目に付
かぬ様にするので在ります。のみならず鳥賊は又
砂に潜り小石を集めて其體を匿します。彼れは前
述の通り自分とは比較の出来ない程迅速なる動物
を捕獲する其の唯一の

器關 は實に拾本の足で在ります。内二本は甚
だ長く、吸盤も非常に強く、是を獲物に投げ懸け
(昔の鎖鎌の様に)そして吸盤を其體に附着せしめ
さへすれば其獲物を取り逃す様な事は殆どない。
次ぎに此長い足を段々と縮めて犠牲を引き寄せ、
短い八本の足の數百の吸盤で確と捕り押さへる。

各の
吸盤 は丁度果實の様に柄が在つて、周縁に軟
骨の輪を作り、筋肉の能く發達した形は「スタン
プ」に似て居て中空で在る。彼れが此吸盤を獲物
に吸着かすのは、先づ出来るだけ「スタンブ」を外
に押し出し、獲物に押付けて間に空氣の狭らぬ様に
して、急に是を緩め其中央の筋肉を牽くと其所に
眞空が出来ます、外圍の空氣(實際は海水)は侵
入せんとして強く周縁を押しします、丁度醫療に用
ふる吸玉の様に、強く獲物の體に吸着するので在
ります。又吸盤の助けで彼れは徐々に進行します

此時は口を下に即ち頭部を下にして居ますから此類を

頭足類 と申すので在ります。口の中には丈夫な二個の鰐が在ります。是は所謂鳶鳥で、其中央に真田紐の様に扁く、「ワサビオロシ」の様に細かい、齒の在る舌が在つて、是を鰐と摩り合せ食物を碎きます。彼は肉食生活をしますので、獲物を見出す爲めに、

強大なる眼 の必要が在ります、彼の眼は哺乳類と殆ど同様の形と構造とを持つて居ります。同じ軟體動物でも貝類などは大變に違ひます。

彼の敵 は大形の魚類と齒鯨類（鯨には口中に鬚を有するものと齒を有するものと在ります、齒を有するのを齒鯨類と申す）とで在つて、是等の敵に迫はると、迅速に海底に潜り、忽ち周囲の色彩に擬すると申す事は既に述べましたが。今一つは實に此類の獨特の機能で、其外套膜に排泄

する

黑鳶色の色素 で在ります、是を漏斗口から海中に吐出すると、忽然として暗雲を起し、敵から韜晦するので在ります。此色素は體中の

黑囊中 に分泌貯藏せるもので、墨魚の名も是から出たので在りませう。生きたる烏賊を水中に入れて虚めますと、直ぐに此墨液を出しますが、

空氣中では決して出しません。實に本能の然らむる所とは申せども、自然の妙はなかく味ひ盡せません

蕃殖 は他の頭足類も大程同じ事で卵生します烏賊の卵は黑褐色で、柄が在つて、此柄で海藻などに附着し、丁度葡萄の様で在ります。海葡萄とでも申ませうか、其粒々の中に、小供が孵化近くなつて居ますのは、可愛らしいもので在ります。

(多く五六月)

漁獲 するのは、魚類の様に釣又は網を使用す

るのが困難で在ますから、大抵擬餌釣と申すのを
用ひます。これは桐の木などで、小魚や蝦の形を
作り、其下の方に鉤を付けたもので。烏賊は是を
食餌と間違ひ吸着しますと、其鉤に引つ懸かゝる
ので在ります。大漁の時は殆ど投げ込んで引つ
懸け投げ込んで引つ懸けと申様に間断なく捕れ
るので

●三崎 私が見ましたのなどは、夏の夜に入り
て三三五と漕ぎ出で 二里計りも沖に行つたの
がもう十一時頃には、二三人位乗つた、小さな一
艘の船に四斗樽に五杯も六杯も漁つて歸つて來ま
す。(是が直ぐに汽船で東京に送られます)是で見
ましても、其釣獲の時間は僅かに一二時ばかりと
申す事が知られます。此船は皆烏賊を寄せ集める
爲め篝火を燃いて居ます、僅か二三里の近海に沿
ふて、數りに渡る漁り火の波に搖らるゝ有様は誠
に夏の夜景の趣味を深うします。

●たこ (章魚又は蛸と書きます) も烏賊と同様の
習性を持つて居りますが、是れは多く海岸近くに
棲んで岩石の間などに、晝間は匿れ夜間に出で
食を求めます。食物も烏賊と同様に肉食で在りま
す。蛸を漁獲するには大抵

●蛸壺 を用ひます。是は小さな壺に紐を付けて
太い綱に幾つも結び付け、珠數の様にして海
底に永く沈めて置くと、蛸が其中に入り込んで居
ます、其時綱を引けば蛸は固く壺の中に吸着いて
遂に陸に引き上げらるゝので在ります誰かの句に
蛸壺や果散なき夢を夏の月
と申すのが在りますが能く此邊の消息を言ひ表は
して居ります

●鳥賊の肉 は鮮食もしますが、鰯として清國に
輸出する高は随分多額で、毎年二百數十萬圓に達
するそうで在ります。鰯は我國にも神饌に供し、
慶賀の際にも用ひますが、清國では盛宴には無く

てならぬ物の一つだそうで在ります

●最後 烏賊と蛸との種類を御話して終りと致さうと思ひます。是は餘り悉くすると管々しくなるのと、分類的の事は趣味の少ないもので在りますからほんの種名を擧ぐる位に止めます

●烏賊と普通申すのは「まいか」の事で胴の大きさは七八寸位で本邦各地の外海に産します其卵は大形で相連つて房となり是は鮮食し又錫にも製します「あふりいか」と申すのは、一寸前者に似て居りますが、胴の長さ三尺にも達するのが在ります。我國では南方に多く是も錫として支那に輸出します「やりいか」は胴の長さ一尺四五寸で、内鱗は三角形に側方に突出で、胴も幅狭まく鎗の様な形をして居ます。我國では中部に多く産して大抵鮮食します。「するめいか」は胴の長さ八九寸で前者に酷似して居ますが、著しく異なる點は、眼の角膜が開いて孔の存するため、水は自在に此

所から流入する事が出来るので在ります。北方に多く産して盛んに錫を製します。輸出の大部分は此錫で在ります。

●烏賊の墨汁は製して、水彩繪の具「セピア」と致します。此色は一種氣品の在る善い色で在ると思ひます。又其甲は粉末として、齒磨の材料とか磨き粉に用ひます。

●蛸にも種々在りますが、普通の「たこ」は大きく三尺位に達しますが、「いひだこ」は小さくて僅かに七八寸を超えませぬ。食用にも致しますが多くは釣魚の餌に供します。以上二種は我國各地の近海に産しますが、「あしながたこ」は海峽などの水流の急なる所に産します。是を釣るのに、河豚の肉を餌とするとうで在ります。播州明石の名産「海藤花」は此「あしながたこ」の房状の卵の鹽藏したもので在ります。

切り花の取扱

(つらき)

こむかひ

(九) 夏菊水揚法

中傳

早朝に切り、根をたき割り、上酒にて養る、又酒に浸して、炭火にて焼くもよし、冷水に入置き、水揚りて後生るべし。

(十) 千日紅水揚法

中傳

朝早く切り、根をたき、熱灰にて焼くなり、根を紙にて包み、冷水に入置き、水揚りたる後生るなり。

(十一) 桔梗水揚法

初傳

矢張早天に切り、根をあつき灰にて、能々焼くなり、朽ちたる所を、切り捨て、冷水に深く入れ置き、水揚りて後生るなり。

(十二) 水葵水揚法

中傳

極早天に切り、竹のへらにて、葉本迄つき通し

其中へ、ふとき紙よりを、さし込み、深く冷水に入置き、水揚りて後生るべし、或は穴の中へ、青山椒三四粒押込みて、生るも妙なり。

(十三) 魚柳水揚法

中傳

早天に切り、水一升到、鹽五勺入れ、能く煮て桶に入れ、其中へ湯のさむる迄、根を浸し置き、水揚りて後花器にうつすべし。

(十四) ぼたん、芍薬水揚法

初傳

極早天に切り、根をたき、油をつけて、火にてよくよく焼き、朽ちたる所を、切り捨て、冷水に入れ置き、水揚りて後生るべし。

(十五) 孔雀草水揚法

初傳

極早天に伐るなり小桶に株を差し入れ、其中へ熱湯を、注ぎ入れ、湯の冷むる迄、捨置き、朽ち

たる所を、切り捨て、冷水へ深く入置き、水揚りて後、瓶に挿すべし。

(十六) 雨後の杜若の傳 中傳

早天に切り取り、直に硫黄の華を、粉にして、株にすりこみ、根を紙にて包み、冷水に入置き水揚りて後之を挿す時、白砂糖を、水に溶し、其水にて杜若の葉を磨く時は、雨後の如く、見ゆべし。

(十七) 花藟蒲水揚法 初傳

朝伐り取り、白水に鹽を加へたるものに、二十分許浸し、又取出して、清水に鶏卵二三個、碎き入れ、よくかきませ、三寸程を、二十分間程浸し後生くべし。

(十八) 照もみち水揚法 中傳

早天に切り、水一升に、鹽の、かり一合加へ、花瓶に入れて、其中に、挿すべし。

(十九) 水引草水揚法 中傳

極早天に切り、根をたき、油をつけ、熱灰の

中へ、二十分間程、差込み、焼朽ちたる所を、切り捨て、根を一寸程、十文字に割り、冷水に、挿すべし。

(二十) 萩水揚法 中傳

極早天露ある内に、伐るべし、一升徳利に、水と、硫黄二十匁入れ、口より株を、挿込み、能々養、朽ちたる所を、切捨て、冷水に挿すべし、花器には、上茶を煎じたる汁を入れるべし。

(廿一) 秋海棠水揚法 奥傳

極早天に伐り、根を割りて、山椒の實をはさみ炭火にて、焼き、冷水に挿すべし、但節高き故に水揚り兼ねるなり、依て節を、互ひ違ひに、割るなり、即一の節を右よりせば、次の節を左より割るが如きを云ふ。

(廿二) だんどく水揚法 中傳

早朝又は、夕方に伐るを、よしとす、川芎を、煎じたる、極熱き汁へ、根を浸し、養え朽ちたる

所を、切り捨て、生るべし、但水深き、花器を好むなり。

是でお約束だけの、お話を、終りました、そこ
でまた、御紹介致したい、物が御座いますが、
夫は、奥傳としては、河骨水揚法、同亮生の傳と
か結び南天の傳とか、時雨柳又は露落し柳の傳、
或は、蓮水揚法、或は竹壳生の傳、割れ竹水揚法

縁 の 家

腸の病

色鉛筆の主人公であつた坊やは、讀者諸君の御
存じの如く、否、讀者諸君よりも執筆者の若き父
と校閲者の若き母とが、最も良く知つて居る通り
其當時は一年と九ヶ月であつた。其後坊やのお家
は二度變つた。

など申す種類で、幼稚園、或は幼児本位の目的に
は不必要と存じますし、旁々貴重な誌上を、下ら
ぬ長話で、埋める事も甚だ心苦しく存じますので
此度は之にて、筆を止める事と致します、後日誌
上にお明きが、御座いましたらば、今數種花物を
御紹介致したいと存じます。

若 父

坊やの一家は先づ八月の二十八日に郊外の代々
木に引越した。其理由は次の通りである。坊やは
四月(一年と五ヶ月の時)に牛乳をコンデンスに
代へた時から腸を悪くして、次第に瘦せて、
且つ非常に氣むつかしく成つて、いろ／＼氣を附
けても手を盡しても、中々急に癒らなかつた爲め

に、八月の初めに小兒科の先生の御説に従つて、二週間程大森に轉地して見た。

變化ある海や空や野原の眺めや、汽車や電車の絶え間なき活動などが、坊やの鬱した氣を晴らし氣分を軽く穏やかにする上に、非常によい結果を示して來た。其時さし當つて、腸に著しい癒り目が見えなかつたけれども、もう少しこの生活を續けたら必ず良いに相違ないと云ふ大體の見極めが附いたので、いよゝゝ郊外生活と決定して東京へ引揚げた。これから一週間程で家をさがしたり荷物をもとめたりして、八月の二十八日に代々木へ來た。色鉛筆はこの間の記事であつた。

子供の腸の病氣に經驗のある方は、いくら輕のでも、そんな緩慢な大袈裟な療治をするよりも、ヒマシ油を飲ませて少し斷食させて、それからタニンゲンでもやつたらと御思ひになるかも知れないけれども、これは身體的存在としての子供を

見るに急で、精神的存在としての子供を輕んじた考へ方であると思ふ。尤も重い場合には全く問題が違ひ、かういふ治療より致方がないからこの場合は別とする。成る程斷食療法は手つ取り早く癒る事は癒るけれども、生んとする盲目的の努力、個體の生存を保つ爲めの營養本能の猛烈なる活動は、坊やの全存在を驅つて食物の爲めに物狂はしき極みまでに動亂させる。呼吸も血も盡く燃えて求め盡した恨めしげな眼から小さい水晶の蛇のやうな涙が流れて、身をもだえ手をわな、かせて泣きさけぶ。やがて號泣が呻吟となり、呻吟が昏睡となつて、傍で見て居る人々は坊やが今度醒めて泣くまでのしばしの間丈け、ほつと休息の息をつく。同情のあつい父や、氣の弱い母には中々出來ない療法である。單にかゝる一日二日の斷食のみならず、なべて病氣と云ふものが、今出來かけて居る坊やの感情や意志の生活の基礎たるべき氣質

なり性格なりの萌芽と云ふやうなもの、上に及ぼす害毒はどんなに甚しいものであらう。これは單に思想の上のみの論ではない。坊やに就いて親しく經驗してからの自分の確信である。

扱て坊やのお家はいよいよ代々木で見つかつた甲武線ならば千駄ヶ谷から代々木へ着かうとする時、左の方の御料地のあたりを見下ろした處に、山の手線ならば原宿から代々木へ來る時、やはり左の方の御料地の邊りを眺めた處に、誰れでも赤いやうな屋根で綠色に塗つた平屋を見る。自分の知つて居る或る學者はこれを線の家と呼んで居るさうである。代々木の夏から秋の暮れにかけての坊やを中心とした線の家の興味ある生活は、中々筆にも畫にも書き盡されぬ程、深い明るい、にぎやかな、又しんみりした味があつた。十二月にいつたら夜分に成ると隙を漏る風が餘り寒いために坊やに風をひかせたので、暮の二十八日に代々木

の他の處へ再び引越した。それから線の家に於ける重なる出來事を少し書いて見やうと思ふ。

おもり

過去の苦しい愛らしい經驗を、努力を以て追想の世界にはる／＼と換ひ戻して、自分の前に取り出して兎見角見して、其當時親しく經驗した身體的の感覺が、もう一度實現するきわまでも、これを精しく濃かに深く味はつて見やうと思ふ事がよく自分にある。例へば坊やをお守した時の經驗の如きである。しかしこの試みは中々困難である。むしろ不可能である。現在の意識の上つて來る經驗は、強さから云つても、續く時間から云つても又其の性質から云つても、もとの感覺とは似ても似つかぬ、淡い短い種類の變つたしかも幽遠な美しい感情の彩りのついた觀念である。感覺のおもりと追想のおもりとは截然たる區別がある。しかし追想をたどつてこれを記述して見たい。

代々木へ越した日から、坊やの氣をまぎらす爲めにトーチャンはよく坊やをおんぶして、朝となく夕となく、彼方此方を散歩した。もとより子守のやうに兵兒帯でしばり付けられもしないから、背中に深くまはして組んだ兩手と、腰を少し曲げて作つた背中の斜面とで、坊やの體を支へる丈けである。緑の野原に白く輝いて居る代々木の踏み切りの柵を越えて、一本路をだら／＼と降つて、又少し登ると千駄谷の櫛の林がある。これを斜に通つて右に曲つて少し行けば、牧野さんの向側に鳥屋があつて、鳩、鶏、家鴨、小鳥などを多く飼つてある。坊や及び其の保護者にとつて公開の、この私立小動物園は、さし當つて坊やの第一の遊覽場でなければならぬ。お守りをする人は、坊やが満足するまでこの前に立つて、この事件に關しての四つか五つの坊やの語彙を用ゐて會話を交換し乍ら、鳥を観る悦びを坊やと共に分けたなけ

ればならぬ。この時分は丁度内閣が代つた時で、新しく農商務大臣になられた牧野さんの門前は、狭い千駄谷の通路に、自動車や馬車や人力車が入り亂れて、禮服を着た人で込み合つて居る中を、トーチャンは不格好に坊やをおんぶしてまご／＼して、どの位運轉手や馬丁や車夫の諸君に迷惑をかけたか知れぬ。

坊やは鳥の見物に興がついて來れば、馬上ゆたかと云ふ意氣で、足を動かして空鎧を踏ん張り乍ら、「オーチ／＼」と緑の家の方角を指して示す。トーチャンは仰せに従つて、これから坊やを乗せたまゝ、復家に歸らなければならぬ。公開私立小動物園に來る時は、肩や腕や手首の關節も、又腕全體の筋肉も、活動の餘力が溢れて居た爲めに、坊やを樂に背中の上部に支へる事が出來て、従つてかなり腰をのばしたまゝで、悠々と坊やを背中に乗せて居る事が出來た。しかし歸り路に成

つて來ると、腕が疲れて追々坊やがすり下つて來るので、重心の移動に伴つて勢ひ腰を曲げてこの調和を保つて行かなければならぬ。加之出發の時から三十分餘も曲つたなりであるから、腰は既に異様な痛みを感じつゝ、腰の關節と其附近の筋肉の緊張抵抗等の作用が次第に減却して來るので、益々腰が曲つて來る。こゝに面白いのは客觀的には、角度を以て測定し得べき實際の腰の曲折は、重心の移動と腰の疲勞との爲めに、身體の位置の感覺に錯感を生じて、主觀的には尙自分は直立して居ると云ふ感覺を生ぜしめる。従つて痛い腰を休める爲めに、少し腰を伸ばして直立しやうとすれば、自分はひつくり返つてしまふやうな感じがして、必ず坊やは轉覆するに違ひないと云ふ恐るべき豫想を生ずる。第一に轉覆を防ぐ爲めには、背中の斜面の傾斜を愈々甚しくして、痛い腰を益々曲げるか。第二に轉覆と腰の曲折とを防

ぐには、胸を前に張り出し、身體の後部を後に突出させて、丁度體を燕尾服を着たボンチ繪のやうな格好にするか、さうでなければ第三に最良の方法として勞れた兩腕に死物狂ひの力を復活させて時々坊やの體をゆすり上げて、全體の重心を成るべく上に持つて來て、主として兩腕の力に信頼して出發當時の姿勢と態度とを再現するかである。取り敢へず第三の方法を採用して、踏切りまで來るうちに九回までもこの重心の移動を試みて、坊やをすり上げる。勞れを休め乍ら踏切りの番人と話をして居るうちに、あまり温和すぎると思つて居た坊やは、何時となしに脊中で寝入つてしまつて、今度坊やの體は流動體的にやに取扱ひにくく、重く成つて來る。何故かと云ふに燕尾服式も重心移動法も、寝入つて身體の調節作用を失つて居る坊やに取つては極めて危険であるから、勢ひ腰曲げ法を一層甚

しく行つて、ゴニヤ〜に成つた坊やを背中の上で十分安全に保護してやらなければならぬ。

加之一旦坊やが寢入つたと云ふ事實が明瞭に意識に上れば、腕や腰の苦痛の感じが神経をえぐつて、脳に焼き付くやうに鋭く深くしみ徹つて肩や肘や手首の關節は、一寸〜づ、次第に伸びて弛んで行つて、外れさうに成つて、其のあたりの血液は青白く變色して、腰の筋肉の一粒〜の細胞は、ひしやげて、押しつぶされて、絶え〜に苦腦の聲をあげて居るらしく感ぜられる。やがて息も絶え〜に成つて縁の家につくと、直ぐに玄關でアーチャンを呼んで坊やを取り外して貰ふ。かう云ふ身體的苦痛のついでに居る間、自分は人生の務めの大部分を果したと云ふ自信を持つのを常とした。

ブン〜バ

坊やのお家は御料地に接した高い原の上にあつ

て、裏木戸をあけるとすぐこの原である。十五夜の月見がすんでから、百舌の聲が一しきり鋭くなり、向ふの檜の林の梢も、葉の色の眺めが、枝の線の面白さに變つて來る頃になれば、快いピアノの音のやうな仲秋の風が午後の日の光を浴びた原の枯草をなびかせて、御料地の林を越えて遠くの薄の原の方までも吹いて行く。縁の家の人々は總がかりで薄縁や花筵や座蒲團を枯草の上に敷いてお茶やお菓子を運んだりして、扱てブン〜バを揚げる。ブン〜バとは凧の事である。ツボンボと云ふ徳川時代の玩具がある、これを坊やはブン〜バと發音する。凧は一寸見た所でツボンボに似て居るから、やはりブン〜バである。北海道の長い〜冬の間に鍛へ上げたと、よく冬の話の出る折にトーチチャンが自稱しつゝあつたブン〜バの手並は、今半紙二枚ばかりの凧の、糸目のくばり、重さの平均、仰俯の角度、揚げてからの早

たぐり、逆おとし、左右水平の飛行は云ふも更らなり、右の手殊に人さし指の使ひ分けによつてブン／＼は最早や坊やの玩具ではなしに、全く大人の遊びに供される。一と通りを教授してからトーチヤンは遠くの小高い丘の上に立つて、全局の光景を見渡して居る。蓋しアーチャンとババチヤンに取つては、凧を揚げると云ふことは、生れてから初めての経験である。光を一ぱいに含んだ秋の空をまぶしさうに見上げて、金色の網をかけたやうな青空を背景にして見て、今更乍ら花やかな凧の色と、空の色との配合の美しさに驚いて、代々／＼に糸を取り合つて、我を忘れてブン／＼バを揚げて居る。この姉妹二人の遊戯の活潑さは女中が凧揚げ場に客を案内して来たたとんに、客と交換した笑をきつかけにして、急に碎けて曲線的にしとやかに成る。蓋しブン／＼は主として意思の作用範圍に屬すべき玩具で、自我の感情の

無碍自在なる發展・努力の感じ、活動の感情、目と手との調和を統一する複雑なる反應、凧の微細なる位置方向経路速度の變化に反應し對抗し之れを制御する手と指との反應時間の早さなどをトーチヤンは考へて居乍ら、暫時閑却されて居た注意を再び坊やに換ひ返へす。

ジンジンチャン

トーチヤンの膝の上に抱かれ乍ら、夕飯の出来るのを待つて居た坊やは、とう／＼眠つてしまつた。外には青暗い霧がいつとなく緑の家のあたりに忍んで来て、今しめればかりのガラス戸から漏れて逃げて行く電燈の光を、ひた／＼と吸ひ盡くし呑みつくしてしまふので、家の中はいつになく寒く且つ暗い、坊やのお粥をかけてある長火鉢の火も、電燈に照らされた新しい障子も、目を開いて眠つて居るやうな白らけた光を帯びて居る。坊やの眠りをさますまいとして、お話をひかへて居

るアーチヤンとババヤンの頭は自ら低く垂れ
て、云ひ合せたやうに暮れて行く秋の夕べの淋し
さをやる瀬なく痛切に味つて居るらしい。この時
ゆるいラツバの音がかすかに遠い——國から流れ
て来るやうに響いて又絶えて又聞える、初めの音
を淋しい心の奥に深く入れた後で次の音が来て、
この音を心行く限り味つてから又第三の音がゆる
くと来る。五音、六音、七音と長く續いて、それ
つ切り聞えなくなる。聞いて居る人の静脈を流れ
て行く血が、次第——に水銀のやうに重く沈んで
脈管の底にきりきりと痛がゆいやうに觸れて、
ガラスを細かく震はせたラツバの音の反響と共鳴
して居るやうな心地がする。

「い、事——淋しい事——、と一緒に云つて、知
らず——立つて戸まで進んだアーチアンとババチ
ヤンの視線は、手で幕か何かを拂ひのけるやうに
ガラス越しに、立ちこめた霧の奥を深くさぐり乍

ら、ラツバのする方をのぞき込む。代々木は青山
の兵營にあまり遠くないからである。若し坊やが
起きて居たら、切れ々に成つた圓の弧のやうな
短い曲線の運動をしながら「ジンジンヤン、プツ
プツ」と云つて、この寂寥な光景を美しく滑稽
化する事もあるだらうと思つて、自分は今はしな
く子供を失つた父と母との秋の夕べの悲しさをし
みくと味ふことが出来た。

しかし悲しいのは夕暮のラツバのみではない。
代々木は軍人の住宅の多い土地である。嘗つて鳥
羽沖に沈没した春雨の艇長大瀧少佐の葬式があつ
て、行列が代々木から青山の齋場まで進んで行く
途中、坊やは白く塗つた踏み切の柵を越えて、千
駄谷の檜の林の中で、この一行を見物したことが
ある。

森の幼稚園(二)

三、園藝主任

私ですか。私自身のことなどは申上げる必要もないことです。然し私がこゝの職員の一入であることと云ふことは、この幼稚園の一の特色をお話するのに、都合のよいことであるかも知れません。

先生が幼稚園の幼稚園たることに深い意味を認めて居らるゝことは前に申しました。然し幼稚園の園たるべきことは、さう云ふ根本的な意味に於いてのみあるのではありません。森の幼稚園は實際に於いて一の大きな園なのであります。

先生は人間、わけても子供の性情の上に及ぼす自然の感化に就いて、恐らく何人よりも最も強き確信を有して居られます。殊に智的とか、美的とか乃至道徳的とか云ふやうに、教育の區劃が未だ

S
K
生

分れて居ない幼児教育にあつては、第一が保育者の人格的感化、それに次いで、自然の感化が重要であることを深く信じて居られるのです。吾々の頭から出る教訓の言葉、吾々の手で造る保育材料は、子供の心に對して多少偏した作用をするものであるを免れません。智育的効力には富んで居るが、美育的たるには缺けて居るとか、美育的には精巧なものであるが、德育的効果には乏しいとか、どうしても、さういふ風になり易いものです。此の點に於いて、自然物程、幼児の全心性に圓滿な効果を與ふるものはないと云ふのが、先生の確信であります。

何時の日でも來て御覽なさい。此の幼稚園には、四季の草花の絶えたことはありません。後の丘に

は小さいながら、いろ／＼の果樹園も設けてあります。畠には其の時々野菜が作つてあります。其の外苑も居れば鶏も居て、風あたりの少い處を選んでは、これ等の家畜小屋、鳥小屋が幾つも建てられてあります。かういふ風で、廣さからいつても、設備からいつても、この幼稚園の主要部分は保育室よりも遊園であることは、一度來て見た方にはすぐに分ります。私のやうな園藝家が、幼稚園の職員であるといふことも、こゝでは、いはゞ當然の必要であるのです。

私は勿論、直接 幼児を保育する役ではありません。然し幼児教育に斯くも大切なる自然物の世話をして居るといふことは、つまり間接に幼児を保育して居るといふことになりませう。ものゝ後に居て、隠れた善をするといふことは、心に愉快なことであります。まして、この大きな自然の後に居つて、かういふ仕事をして居るといふことは、

私には胸の踊る程愉快なことであります。

或る時のことでした。某縣の教育家が參觀に來られました。その時先生は丁度私といつしよに泥だらけになつて畑におりて居ましたが、そのまゝ、花壇や、森や、鶏小屋などを案内して、保育室へは案内しなかつたことがありました。その教育家も別に保育室を見せて呉れともいはず、丁度畑で芋掘りをして居た幼児達を見て、大層満足して居られました。

その折に私を紹介された先生の言葉が奇抜でした。

「花田君は、ガーデン主義の具體的の方面の主任をお頼みしてあります」

四、笑がほの人

春野さんは初めてこゝへお出の時分には、随分しかつめらしい顔をしてお居で、した。前からのいろ／＼のお身の上を承はつて見れば、並大抵

のお不幸ではない。良人には、永い看護の効もな
く先き立たれて、その後は幼い忘れがたみを若い
女の身一つに育てなければならぬ頼りない境涯の
人になられた。あゝとか斯うとかいふ、其の人々
から言へば親切な申出も世話も少からずあつたそ
うである。併し春野さんには、どこ迄も其のお子
さんの一人の母で通さうといふ決心が堅かつた。
その爲に、拒まれた親切は不親切に變る世の人情
から春野さんは愈々障碍の多い境涯になられて、
自然と若々しい頬の色も褪せた。訝やかな聲もか
すれた、打ち開けた胸も閉ぢ勝ちで、陰氣な、し
めつばい気分になつた。——先生が春野さんを如
何にも氣の毒に思つて、こゝへ招かれたのは丁度
さういふ時であつたのでした。何となくしかつめ
らしい、年齢に似合はない不活な容子が顔色や
舉動に見えたのも、まこと無理のないことであつ
たのでした。しかしそれが一月たち二月たち、次

第に春野さんの顔が解けて來ました。段々快活
な氣分に變つて來ました。一同深い同情を以て迎
へた私達は、春野さんの此の變化を何より喜ばし
いことに一同で思ふ様になりました。

そこで先生は、春野さんに更めて幼児の一と組
を渡されました。元來春野さんの學歴から云つて
も、技倆から言つても、充分一と組の幼児を受け持
つ力のある方なのです。しかし「笑がほの人でな
ければ幼児の友にはなれぬ」といふ先生の日頃の
主張から、此の悲哀の人に、そのまゝ直ぐに幼児
を託されなかつたのでした。凡そ半年許りも事務
の方の用事をして貰ふことにして、自然と其の悲
哀を和らげようといふ先生の深いお考へであつた
のでした。果して先生の此の計畫は効を奏しまし
た。今の春野さんは、眞にお名前の通り、晴れや
かな、輝いた、快活な「笑がほの人」であります。
春野さんが斯くも急な變り方をして、「笑がほの

人」になられたには幾つもの原因のあることでしよう。甚だ立ち入ったお話ですが、生活の安定といふことも與つて居りましょう。先生初め先生の一家の方々の行き届いた、懇切の慰めやらお世話やらも素より大に原因をなして居りましょう。しかし春野さんは自ら常に「私は幼稚園全體の笑がほに化せられました」と言つて居ります。

森の幼稚園には別に成文の綱領と言ふ類のものは一つもありません。しかし一同が自ら遵法し、互に相警めて居ります幾つかの不文綱領の中の一つは確に此の「笑がほ」といふことであります。前にも申した様に先生の主張としても、又一同の理想としても「眞に笑がほの人でなくては、眞に幼児の友にはなれぬ」といふことを始終忘れないで居ります。私は自分に感じて居る著しい一例として春野さんを挙げましたが、其の他の人達も、いづれも皆心は常に春の野の如き人々のみであり

ます。不平といふことを聞いたことがありません。不機嫌な顔色を見たことがありません。どんな寒い日でも暑い日でも、風の日も雨の日も、どんな忙しい疲れた日でも、此の幼稚園の子どもは先生の額に八の字のよつて居るのを見ることはありません。どの先生に話しかけても無愛想な返事をされることはありません。

學力から言つても、保育の經驗から言つても、此の幼稚園の人達よりも勝れた保姆は澤山にありませう。併し、こゝ程笑がほの人の揃つておいでの處は、私は他にたんと知りません。健康の具合とか、特別な事情とかで、どうしても心の沓えくくすることの出来ない様な時は、こゝでは遠慮なく休んでいゝことに先生から言ひ渡されてあります。その代り子供に接して居る以上は、機嫌の悪い、活氣のない、いや／＼ながらといふ様な顔付は堅く禁物になつて居ります。

机邊だより

倉橋惣三

○話の仕方 (ブライアント氏)

一、話の目的

先づ教育的話術の目的は何であるかといふことを考へませう。近來は教育上に談話術の必要といふことに就いて、十分注意せられて居ります。然し其の話術を重んずる人々の中には話術の大切な目的と、比較的小さい効能とを混ぜられて居ることが少くありません。學校などで話術に熱心なといふ人が、多くは自然現象の説明に使つて居ります。成る程地理學、動物學、植物學乃至物理學等のこともこれ等の學問の材料を面白、おかしく組み立て、お話しで教へることが出来ます。幼稚園の保姆諸君はわけても、かういふことに上手で

あります。勿論、かういふことは話の使ひ方としては、正當なことで、又有効なことに相違ありません。然しこれは話術の目的の第一義ではありません。

一體話とは何んでせうか。科學の教科書でせうか、地理の説明書でせうか。歴史の入門でせうか。勿論、さうではありません。談話は元來一箇の藝術であります。従つて其の主要なる働きは、藝術的の用法に於いて初めて得られなければならないのであります。彼の演劇は人生の出來事を取扱つて居るものでありますから、これを以つて社會學的學說をも説くことが出来ます。經濟上の原理をも説明することが出来ます。政治をも描き出すことが出来ます。けれども、これだけであつたら演

劇は演劇として詰らないものであります。これと同しく談話を用ゐて子供に知識を興へるだけでは、折角の術に對して甚だ物足りぬことであります。恰度、かの有名な彫刻像ミローのヴナスを用ゐて解剖學の説明をするやうなものであります。

談話の仕事は美の仕事であります。人生に於ける役目から云へば、喜びを興へ、愉快を供する仕事であります。談話の教育上に於ける正當なる役目も又こゝに存せねばなりません。

私は談話の他の效能を無視するものでは、もとよりありません。たい以上述べた此の目的を固く信ずる爲めに、以下この見地から此の問題を考へて見たいと思つてあります。私は再び明瞭に申して置きます。談話は一つの美術的製作であります。兒童に對する其の最大の効用は美の力に訴へて初めて力があります。美を以つて子供の心を

新しき慾求に促して行くのであります。新しき理解に進めて行くのであります。談話を以て眞に子供等を樂しました人はもうそれだけで大きな仕事をして居るのであります。其の話の内容が子供にどれだけの知識を興へたかといふことの外に、これだけで立派な仕事なのであります。子供等の心が生々とする。美しい想像の窓が開く。子供等の世界に色彩が殖ゑて行く。——これだけで談話の最大の目的を遂げたと言はなければならぬのであります。

(ブライアント氏は如上の見地から話の四つの種類、お伽話、意味なし話、自然話、歴史話に就いて自分の考へを述べて居ります。茲にはその意だけを採つて極く粗雑な自由な御紹介をして置きます)。

(イ) お伽話

子供と云へばお伽話は昔からのつきものであり

ますが、ある一部にはこれを古風の弊習と斥けて居る人もあります。實際教育上の立場から云つて効果のあるものでせうか、ないものでせうか。あるとしてもどんな意味に於いてあるのでせうか。これはよく考へる必要があります。お伽話にはお伽話の特徴があります。従つて其の利益も其の特徴に依るものです。第一、お伽話は包まれた上覆のもとに真理を供します。真理が上覆に包まれて居るといふことは、人類の子供、即ち野蠻人の知識の持前であります。われわれの子供の知識の持前も又同じであります。道徳の真理や人生のいろいろ詩のやうな上覆ひに包まれて居るのが、即ちお伽話であります。勿論、子供は或る時機の間は、其の上覆だけを知つて、中身を知ることが出来ません。然し真理はかういふ間にも、子供の経験の中に折り込まれて、知らず知らずの間に其の子の本性の一部分となつて行きます。少くも子供の内的生

活の容量が、廣げられ深められて、成長後の爲めに有益なる貯蔵となります。第二には子供の想像力がゆたかに養はれて行きます。其の詩的な情趣に養はれて子供の詩的鑑賞力が育つて行きます。狐がどうした狼がどうしたと、云つて居る造りとは、子供にとつては實は大きな文學であります。子供の時に單に科學的や歴史的の事實談のみで育てられたものは、何時文學に對する鑑賞の練習が出来ませうか。即ち一方には徳育、一方には美育、この重要な二方面が知らず知らずの間に出来て來るといふ處に、お伽話の効用があるのであります。尙これは小さいことですが、昔からあるお伽話の類には、流石に簡潔直截な云はひ十分になれた處があつて、新作物の陥り易い、まわりくどい、わかり悪いと云ふやうな弊が少くあります。これまた、子供の爲めに至極適當なる長所であります。

(口) 意味なし話

意味なし話といふのは、内容から云つて意味のない、たゞ面白く、おどけたといふやうな軽いたわいな種類の話であります。これも内容論者から云へば、餘りに無味なくならないものとも見えます。然し心の緩和劑としての効は十分に認めなければなりません。さなきだに、しかつめらしく窮窟になりやすい大人と子供との間に、この種の軽いおどけは、こつた神經に輕ひ電氣の刺戟を與へるやうなものであります。尙且つおどけは常に多少の諷刺の意味を以つて、きゝめある暗示を子供に與へることが出来ます。可笑しくて笑ふ、うち解けた態度の内に、生真面目な態度では與へられないやうな深い了解を促がすことも出来ます。但し諷刺の意味の大過ぎること、及び其れが主になり過ぎるといふことは、無意味話の本來の意味ではないのでありまして、何處までも無意味話の第一義は軽い可笑しさにあります。其の中に智

慧の含まるゝかどうかといふことは、必ず第二義でなければなりません。

(ハ) 自然話

自然話はこの頃の先生方が恐らく一番多く用ゐらるゝ話であります。子供には理解のむづかしい自然の現象を、子供の興味に惹きつける爲めに、自然を生きたものとして、人間の生活のやうに取扱つて行くことは、確かに一つの賢い教授法でありませう。然し前にも述べましたやうに話はどこ迄も教科書ではありませぬ。即ち自然話を以つて自然を教ゆるだけの用に供しやうとするのは、甚だ足りないことであります。動物の生活などを説明するに子供の生活になぞらへて、説明するといふやうな場合も、これが動物の知識を與へやうといふだけのことならば、甚だ物足りぬことであります。即ち自然話は自然を語つて子供の美的感情を養つて行くといふ大きな働きが、出来なければ

ならぬのであります。又一方には自然物に對する同情の養成といふやうのことも出來なければなりません。而してこれ等は自然科學の教科書が與へる處のものとは全く違つたものであります。この、教科書と違つた効果を擧げ得る處に於いて、談話としての自然話の意味も目的もあるのであります。

(二) 歴史話

歴史話の効果もまた、歴史の教科書とは別のものでなければなりません。古い時代の事實を子供に教へるといふよりは、この事實から養はれて行く種族意識の養成が目的であります。愛國心の養成といふのも、語りこの事でありませす。次には又、子供の英雄崇拜の心を利用して、種々の種類の偉人豪傑の逸話から善と賢とに對する愛慕の念を養ふといふことも、この話の大切な目的であります。以上話の種類に依つて、それ々の目的を異に

します。然し其の何れの談話も第一目的が知識の供給でないことは同一であります。而してこの知識以外の効果を期する爲めには、談話が總べて藝術的の性質のものとして、考へられ、また取扱はれなければならぬことは明かであります。

二 話の仕方

話をするには、先づ話を擇ばなければなりません。即ち聞手に適應するやうな話を選択せなければなりません。處で選擇が出來たならば、次にはどういふ風に話すかといふ、全く方法の問題が起ります。

どういふ風に話をするかといふ問題に答へるには、話の眞の目的から解決されなければなりません。然るに話の眞の目的は前に述べました如く、藝術的の仕事であるとなれば、話をする人もまた藝術家の態度を持たなければなりません。それなれば藝術家の態度を以て話をするといふ爲めに

は、どういふ秘訣を要するか、私はこれに答へて「談話者は先づ其の談話に感じなければならぬ」と云ひ度いのであります。苟も藝術的の仕事であるならば、其の思想及び情緒の大小に拘らず、先づ自らこれを十分に感じて居る人でなければ、他へ傳ふることが出来ません。如何に小さい話であつてもこれが成功する爲めには、自ら十分感じて居なければ出来るものではありません。

然らば此の秘訣を完ふする爲めには、實際上にどういふ、心掛けを要するかといふに、それには積極消極の二つの心掛けが要ると思ひます。積極的には諸君の感情を習練して、總ての談話に十分の感じを持ち得るやうにすること、消極的には自ら感ぜざる話は決してしないといふことであります。この第一の方の、習練に依つて感情を養つて行くといふことの、必要は詳説を要しません。第二の點に就いては恰度私の失策が好い教戒とな

ります。嘗て私の友人が或る話をして、非常に成功しました。聴衆は面白さに酔ふて、賑やかに笑いついででありました。然しどういふ譚か私には少しも可笑しくも面白くもなかつたのであります。けれども其の友人は自分の成功に基つて、私にも其の談話をすることを勧めました。そこで私は十分にその話を研究して或る場所で、試みて見ました。聴衆は多少うけてくれました。又静かな笑も一二度は起りました。けれども、どうも興味の頂點に到ることは出来ませんでした。勿論全然失敗といふのはありませんし、私は又、いろいろの工夫をして、もう一度その話を試みました。然し聴衆を興味の頂點に導き得ることは、前と同じでありました。私はもの足りないまゝで、其の話を暫く捨て、置きました。程経て後、或る時ふと其の話を思ひ出して、再び讀んで見ました。すると今まで氣の附かなかつた面白みが突然に判

りました。即ち言ひ換れば、この時初めて私は其の話を感じたのであります。それから後、私はこの話をする度に前の友人の場合と同じやうに成功を必ず得るやうになりました。その話そのものは、詰らないやさしい話なのですが、談話者自ら感ずることの有無に依つて、かうも聴衆に與ふる力の大小があるかといふことを、自分で驚いたのであります。元來、話手と聞き手との間には、強い暗示的作用が働いて居るものであります。この心理的作用なしに話手が聞き手を魅するといふことは到底出来ないであります。聴衆の感動といふことは、云ふに云はれぬ微細なる心理状態ではあります、その原動力となるものは話手の方にありますのであります。自ら強き心の力を有せざるものは、他の人の心に影響を與へるといふことは、不可能であります。

扱て以上は話方の、言はば根柢であります。然

し話も一の術であつて見れば、そこに幾つかの技術といふものもなければなりません。

(イ) 其の第一は先づ語らんとする話を、知ることでありませぬ。話をして居る途中で人の名や場所の名を忘れたり前後の關係が曖昧になつて、自ら語調のと切れを生ずるといふやうなことは、言ふ迄もなく話の力をそぐことが大であります。其の話を自ら知ることの覺束かないと云ふことは、聴手に絶えず何處となく不安の感じを起さして、遂に深い興味に誘い入れることは出来ませぬ。第一話の要點を捕捉して居なければならぬ。第二總へての發展が自分のものになつて居なければならぬ。即ち語る時には一々の話が自然に語り手の口から溢れ出るといふ位でなければ、到底話が生きて來ませぬ。處でこの、一の話が我がものにするといふことは、單に記憶暗誦を以つて得らるべきものではありません。一般に暗誦は自在を缺き自然を缺

くもので、形を得て心を得ぬといふやうな弊があります。私のいふ話を知れよといふことは、話の主意を知れよといふことであります。個々の言葉遣の如きは全く其の時／＼自由に作り變へていい筈のものであります。勿論話の中には一字一句原文の通りにした方がよい個所も折／＼はあります。然しさういふ特別の場合を除いては、話は話手の言葉で話していいものであります。二度話せば二度異つた言ひ方をして少しも差支のないものであります。話の要點はしつかりと捕へて居て自在な言ひ方に捌いて行く——これが即ち話を我がものにするといふことであります。

(口次には聴手と話手との位地の關係を適當にする)ことが大切であります。それには子供等が話手の視線の中に、成るべく近く成るべく真直ぐにくるやうにする必要あります。普通に用ゐられて居る半圓の方法は兒童が少數である場合には最も

適當であります。但し此の場合話手は弧の外側に居ないで、内側に居ることが大切であります。又弧の兩端が成るべく遠く離れないことも大切であります。即ち全兒童が残りなく、話手の顔を十分に且つ樂に見ることの出来るやうな位置にあらなければなりません。

(ハ)話し初めには子供の方を先づ靜かに落ちつけることも必要であります。然しそれと同時に話手の方が十分に氣分を纏めることが必要であります。凡そ話をして居る間は、その室内の全體の空氣がその話の情調に一致して居なければならぬことは、云ふ迄もありませんが、嚴格に云へば話の初まる前から其の情調に適はしい感じを聴衆に與へ置く必要あります。而して此のことの出来る爲めには、自らが話を初める前に、十分其の話の心持ちになつて居なければなりません。例へば春の野の話をするといふ時には、話手の心に明るい

美しい賑やかな春の野の景色があり／＼と見えて来て居なければなりません。話の事件は次から次へと發展して行くにしても、其の背景となる舞臺面の氣分だけは、話し手の心の内に判つきりと、生き／＼と出来て居なければなりません。話し手の方に、この準備がなくて聞き手を其の世界の中へ導いて行かうとすることは、到底出来るものではありません。話は無形のものでありますけれども、かういふ意味に於いては、あり／＼とした光景が話の初めから、話し手と聞き手との間に、存して居なければならぬのであります。

(二) 先づ話を自分のものとし、聴衆を適當に列らべ、自分で氣分を纏めたとして、次には實際に話し方の問題が起ります。私はこれに四つの注意が要ると思ふ。卒直に、簡明に、戲曲的に、而して熱心に、即ちこの五つであります。

卒直、卒直に話せよといふことは、言ひ換れば

自然なれといふことであります。彼の態とらしい、種々の技巧を弄して、殊更らに子供の爲めに聲や態度を造らへて行くと云ふことは、甚だ厭ふべきことであります。第一話をして居る間に、かうした作り聲や造らへごとの出来るといふは、話し手の自己意識の絶えず働いて居るといふ證據でありまして、話術の根本義たる藝術的態度と最も相容れないことであります。のみならず我れを忘れて其の話に聞き惚れるといふ子供の態度と合致し難い態度であります。話し手は宜しく其の内の没頭して自分の技巧などを考へる餘地がないといふ位でなければなりません。先づ自ら其の話の氣分に化せられて、それが自然にあなたの口から出て來るといふのでなければなりません。

既に態度に於いて此の卒直を得れば、言辭の選擇も自然卒直になります。何も話の言葉は殊更らに飾る必要はありません。簡単な平常遣い慣れた

言葉程、聞き手にも話し手にも生きて居るものは
ありません。言葉も態度も卒直なることが眞の語
術の第一要件であります。

簡明、簡明とは詰りまわりくどいことの反對で
あります。總の事件は特別な必要のない限りは、
餘計な説明も形容もしないことであります。子供
の目の前に事件のありの儘が發展して行くやう
に、順序さへ亂れなければ簡明が一番理解される
のであります。子供に對する話として、くどく
しい説明や御説法程、無益有害なものはありません。
説明した爲めに反つて判らなくなり、御説法
をした爲めに反つて力を失ふことは屢々見ること
であります。元來話し手は話の作者に比して、餘
程都合がよいのであります。作者は言葉だけで事
件も印象も明かにして行かなければなりませんか
ら、自然こま／＼と詳しく書かねばなりません。
然し話し手には顔の表情もあり言聲もあり、體の

身振りもあり、言葉をすつと省くことが出来ます。
作者が二つの動詞を使つて居る處に、話し手は一
つで十分であります。作者が三つの形容詞を使つ
て居ることを、話し手は一つで十分に表はすこと
が出来ます。それを作者の書いて居る以上にまで
説明しなければなのぬといふのは、拙の最も拙な
ものであります。

戯曲的、戯曲的に話せといふことは誤解され易
い言葉であります。殊に卒直簡明といふことは相
容れないやうに思はれることがあります。然し少
くも私の戯曲的と云ふのは、つくれ、かざれ、たく
め、と云ふやうに技巧的に解されてはなりません。
話し手と聞き手との間に白壁を置くな、と云ふこ
とに過ぎません。即ち話し手の筋が始終聴衆に美し
い舞台として目に見えるやうであれと云ふことに
過ぎません。勿論、話の聲の抑揚、いろ／＼の
擬聲、目や手の使ひ分け等も話し手の自然の表出

であれば結構なことでありますが、これをするこ
とが即ち戯曲的に話すと云ふことだと思ふのは大
なる誤りであります。かういふ巧者なことは人に
依つて得て不得手のあるものであります。話を上
手にするといふ爲めに、不得手の人までも強ひて、
こんな真似をするのは大不賛成であります。もと
ゝ藝術の一である話術がそんなうそやこしらへ
ごとで、成功すべき筈はありません。

談話が眞に戯曲的である爲めには、二つの要件
があります。其の一は解剖的なるよりは、暗示的
なれといふことであります。由來、話し手は自ら
話の一部分となつて其の舞臺に登らなければなら
ないものではありません。話し手は聴衆の想像を
呼び起すだけに其の話を描き出せばよいのであり
ます。それが餘りに細に入り詳を盡くして一切を
語らねばならぬと思ひますと、反つて聴衆の想像
を殺して、我點はするが目に浮ばぬと云ふやうな

ことになります。要件の第二は話の畫面の明瞭な
ること、其の表し方に力のこもつて居ることであ
ります。話の中に出て來る人物などが一人ゝ明
かな性格に區別されなければ聴き手はこれを目に
浮べることは出来ません。又話の決り處々々が強
く印象されなければ、これ又目に見えるやうに想
象するといふ譯にゆきません。詰り聴衆をして話
を聴くのでなく、見るやうにならしめること、こ
れが戯曲的に話すといふ趣意に外なりません。

熱心、これは別に詳しく説くまでもありますま
い。苟くも藝術的の効果を聴衆に與ふるのに、い
い加減な不熱心なことでは出来ません。

これを要するに、話の方法は何も自然の外にこ
しらへた技巧があるといふ譯ではありません。卒
直なれ、潑刺なれ、熱心なれ、つまりこの外にな
いのであります。

雜 錄

△△△△△△△△ 本會主催音樂會

お互様に忙しい身、彼の用も此の用も次から次へ追はれて居る中にも、偶にはゆつくりくつろいだ心の養ひもとり度いと思ひます。洒れ易しい、せいこましくなり易い心に、のんびりとした休息を興へ、無趣味になり易い心に豊かなる趣味情味を加へてゆくには音楽に感したものはありますまい。本會が斯ういふ企をなします微意も茲にあります。幸に大方の方々、殊に我國音楽界第一流の方々の御賛同を得て、愈々今月廿五日東京女子高等師範學校講堂に於て趣味多き此の會を催すことになりました。詳しくこととは本號所載別項に於て御承知を願ひますが、いづれも著名の名手ばかり、妙へなる樂器の調べ、すぐれたる聲音の美、想像するだにも胸踊るを覚えます。會員諸君その他の方々大勢お誘ひ合はせ御來會下さることを切におすいめ致します。

△△△△△△ 保姆の紹介

舊設新設に拘はらず、各地の幼稚園で適當の保姆を得ることに苦心さるゝ御相談を受けることが屢々あります。また立派な技倆もあり熱心もあつて適當の働き場所を得られない、保姆志望の方々の御相談を受けることもあります。本會は此の雙方の御便利を謀り、幼兒教育の發展の爲に出来る丈のお世話を盡し度いといふ素志から、本誌上にさういふ方々の爲め一欄を新設することに致しました。

保姆を求めらるゝ方は、其の御希望の詳細、(假令は年齢、資格、等に關する條々)及び俸給の御豫定額等を御申越しあれば、

本誌上に掲載します。幼稚園の名稱だけは御都合により誌上へは匿名に致しても差支へありませんが、土地だけは明記して應募の方の便に供することにします。

保姆を志願さるゝ方は、住所、經歷、年齢、奉職上の御希望(地方、俸給等)詳細御申込あれば、誌上へ掲載します。お名前は勿論誌上へは載せませんが御年齢だけは載せる必要があります。これにはお含み置き願ひます。

求めらるゝ方、志願さるゝ方、いづれに對しても本會は充分徳義上の信義及秘密を守ることとは勿論であります。又素より職業的計畫でありせんから、どこ迄も當事者の御都合、御希望を尊重することも勿論であります。たゞ相互の御紹介、御交渉の御取り次ぎが主意でありますから、それ以上、事の成否に就て本會で責任を負ひ得ざることとは豫め御承知置き願はればなりません。

此の事に關する御用件は封書にて本會事務所宛御申込願ひます。手数料に類するものは一切要しませんが、返信料だけは必ず御封入を乞ひます。

○臺灣宜蘭街兒童遊戲會

臺灣宜蘭街公園内にある兒童遊戲會は、名は遊戲會であります。が實は幼稚園保育に當る事業をして居らるゝので會長、幹事は皆土地の名望ある紳士諸君よりなり、主任櫻川いち子氏の熱心により愈々盛になりつゝある由であります。臺灣兒童の幸福の爲に最も慶賀すべきことであります。

○ラルソン畫集申込の方々へ

ラルソン畫集申込の方々の意外に澤山でありましたことは折角お取次をしますのにも甚だ愉快であります。本月初め取そろへ注

文致しましたから着荷次第お届けします。多少の時日はお待ち遠うですが御猶豫な。(倉橋生)

新刊紹介

○宮川壽美子著「三ぼう主義」

女房(家庭)説法(宗教)鐵砲(兵備)之れが國を治むるの三ぼうであるといふ處から此の書名が出て居ます。即ち家庭、宗教、兵備の重要問題について著者の意見が輕妙なる穩雅なる筆致を以て語り出されて居るのであります。著者は日本婦人としての見識と英國留學中に得られた見聞とによつて、彼我の長所美點を發輝せんとせられたものであります。一々のことは親しく讀んだ上で人々の御意見もあることと思ひますが、此の書の始めから終り迄實に淑女らしい、上品な心持の漲り漂ふて居るといふことは、一度此の書を読んだ方の誰れも一致する感じだと信じます。私は著者から此の本をいたゞいて、其の夜すぐ閱讀して、近來での快よい感じに満たされました。強い主張があつて、しかも荒だいないや和らか味に包まれて居る處、どこ迄も眞卒に眞面目で、しかも中々あま味のある處、流石アングロサクソンの美點を學んで來られた著者の筆だと思ひました。男子にも勿論有益な書であります。殊に婦人の方の爲に近來の好著として是非お勧めしたいのであります。智識の書、理屈の書の外に、斯ういふ文化の書を読んで精神を上品にすることは若い婦人方に極く大切なことと思ひます。

(東京實文館發兌、定價八拾錢)

○本誌定價

- ◎一冊郵稅共金拾一錢
- ◎六冊前郵稅共六拾錢
- ◎拾二冊同金圓貳拾錢
- ◎郵券代用一割増

○購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

○本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

- (イ) 庶務上保姆紹介に關する件をも含むの御手紙は東京市小石川區久堅町七十四番地フレイベル會事務所宛
- (ロ) 會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、雨森劍宛
- (ハ) 本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木九二、倉橋惣三宛

明治四十四年二月一日印刷
明治四十四年二月五日發行

編輯兼發行者

倉橋惣三

印刷者

東京市本所區番場町四番地 井登

印刷所

東京市本所區番場町四番地 凸版印刷株式會社本所分工場

發行所

東京市小石川區久堅町七十四番地 フレイベル會

主 フレーベル會
催 音 樂 會

殘雪山にあれど、風のやわらかみ、土のうるほひ、籬外の春漸く近きを覺ゆ。同好の紳士淑女相集ひて、半日の閑を名手の音樂に酔はんとす。春を待つ心の感興おのづから茲に至れるのみ。もし夫れ憊れたる心の慰安となり、又以て新らしき趣味向上の助けたるに於て得る處あらば、此の擧の所期まことに完ふせられたりといふべし。本會平生幼兒教育上の相談相手として、廣く大方の伴侶たること久し。而して幼兒教育のこと、必ずしも理を以て盡し難し。意暢び、氣和かに、溫雅なる趣味にゆたかなるは、幼兒の師友たるに缺くべからざる用意なりとす。願はくは此の擧の微意の存する處を賛して、多數諸君の御來會を賜はらんことを。

一、二月二十五日(第四日曜日)午後一時半

一、東京女子高等師範學校大講堂に於て

一、洋樂。幸田延子、安東幸子、ヘッオールド夫人、頼母木こま子等の諸女史

一、和樂。尺八 鎗田藏之助氏 長 唄

吉住小三郎氏 吉住小三藏氏 吉住小四郎氏
三味線 杵屋六四郎氏 杵屋彦之助氏 杵屋和三郎氏

(プログラム調製中)

一、一等貳圓。二等壹圓。三等五拾錢。

二月

フ レ ー ベ ル 會